

ああ

噫常夏の国なれや

作詞：不詳

ああ
1. 噫常夏の 国なれや
けんらん
花絢爛の 春あれど
こがらし おそ
木枯らし襲う 秋知らず
かつい
葛衣に耐えぬ 夏あれど
こきゆう
狐裘骨さす 冬知らず
だみん
惰眠栄華の 夢に酔う

噫：ああ、感嘆の気持ちを表す声

絢爛：きらびやかに輝いて美しいこと

くず
葛衣：葛の繊維で織った薄いからびら

狐裘：狐の皮で作ったかわごろも

惰眠：なまけて眠っていること
なにもせず無益にすごすこと

2. 名も太平の 洋の西
深き眠りに 入れる秋

太平：泰平、 太平の洋：太平洋
とき

秋：たいせつな時、危険のさしせまった時

きたす黒潮 瀬を早み

瀬を早み：瀬の流れが早いので

よくじょう
沃饒の土に しぶき飛び

ばんぼく やし
万木落ちて 椰子の葉に

となん きゆう ささや
凶南の急を 囁きぬ

万木：多くの木

おおとり
凶南：(荘子の鵬が南に飛び立とうとする意味)から、南に発展しようとする
こと転じて、遠くの地で大事業を起こそう
とする計画

さ
3. 太平の夢 醒めて今
わ
向上の気に 血潮湧く
ふる
若人七百(一千) 奮い立ち
となん
凶南の権威 たらんとし
ここ す ごも
茲城頭に 巢籠りて
いくせいそう
翼鍛えぬ 幾星霜

城頭：城のほとり、城の上

翼：ここでは凶南の翼

星霜：としつき、歲月

※第七高等学校造士館(現鹿児島大学)の第10回記念祭歌として作られた七高の代表的寮歌「北辰斜めに」が元歌である。当時、大中の先輩たちが七高一東大と向学心に燃えていたことが窺える。